



第63回 定時株主総会

2021年10月27日（水）

貴金属表面処理加工分野の
リーディングカンパニー



市場：東証JASDAQ
証券コード：3441

新型コロナウイルス感染拡大防止について

- 本総会につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下の感染防止策を実施させていただいております。
- 株主総会時のマスク着用をお願い申し上げます。
- 開催時間短縮のため、報告事項や議案の詳細なご説明を省略させていただきます。
招集ご通知の内容をご一読くださいますよう、お願い申し上げます。

株主の皆様へお願い



会場内では、
スマートフォン・タブレット
など情報機器の電源をお切り
いただくか、
マナーモードをお願いいたし
ます。

会場内での
「喫煙」、「撮影」、
「録音」は ご遠慮下さい。



入場票のご説明

- ご出席番号票は、株主総会終了までお持ち下さい。
- ご発言の際は、ご出席番号票に記載の番号とお名前をお申し出下さい。
- 再入場の際は、ご出席番号票が必要となります。ご出席番号票を受付にてご提示下さい。

開 会

監査報告

**「連結計算書類に係る会計監査報告」
「計算書類に係る会計監査報告」
「監査等委員会の監査報告」**

につきましては、

**招集ご通知41ページから46ページに
記載の通りでございます。**



事業報告

1.企業集団の現況に関する事項

2020年8月1日から2021年7月31日までの

- (1) 当事業年度の事業の状況
- (2) 財産および損益の状況の推移
- (3) 重要な親会社及び子会社の状況

につきましては、

**招集ご通知14ページから18ページに
記載の通りでございます。**



（４）対処すべき課題

(4) 対処すべき課題

当社グループの基本理念

「表面処理で社会のインフラを支え、
人々の暮らしの安全、便利な社会の実現に貢献する」

- 
- お客様の多様化するご要望に応えることで、企業としての存在価値を高めてまいります。
 - 関連法令を順守し、お客様、株主・投資家の皆様、取引先、地域社会をはじめとした関係者に対する社会的責任を果たしてまいります。

(4) 対処すべき課題

中長期的な会社の基本戦略

持続的な成長を果たしていくために

- ① 受注拡大
- ② 収益力強化
- ③ 人材教育・育成
- ④ 環境への取組み
- ⑤ 新規事業推進

(4) 対処すべき課題

対処すべき課題の詳細につきましては、
**招集ご通知の18ページから19ページに
記載の通りでございます。**

- **中長期的な会社の基本戦略として、
持続的な成長を果たしていくために、
これらの施策を推し進めてまいります。**

1.企業集団の現況に関する事項

2020年8月1日から2021年7月31日までの

- (5) 主要な事業内容
- (6) 主要な営業所及び工場
- (7) 使用人の状況
- (8) 主要な借入先の状況
- (9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

につきましては、

**招集ご通知20ページから21ページに
記載の通りでございます。**

会社の現況並びに連結計算書類及び計算書類

2. 会社の現況

連結計算書類 計算書類

につきましては、

招集ご通知22ページから40ページに記載の通りでございます。

▶ 決算の状況と今後の方向性

2021年7月期業績ハイライト

- ▶ 増収増益。売上高80億円台に。営業利益前期比+46.7%。
- ▶ めっき需要は旺盛。5G通信向け・産業機器・車載など需要は好調。

売上高 8,051百万円
↑ +1.3%

・国内で5G向けを中心とした通信・産業機器・車載の需要が堅調・フィリピンも堅調

営業利益 262百万円
↑ +46.7%

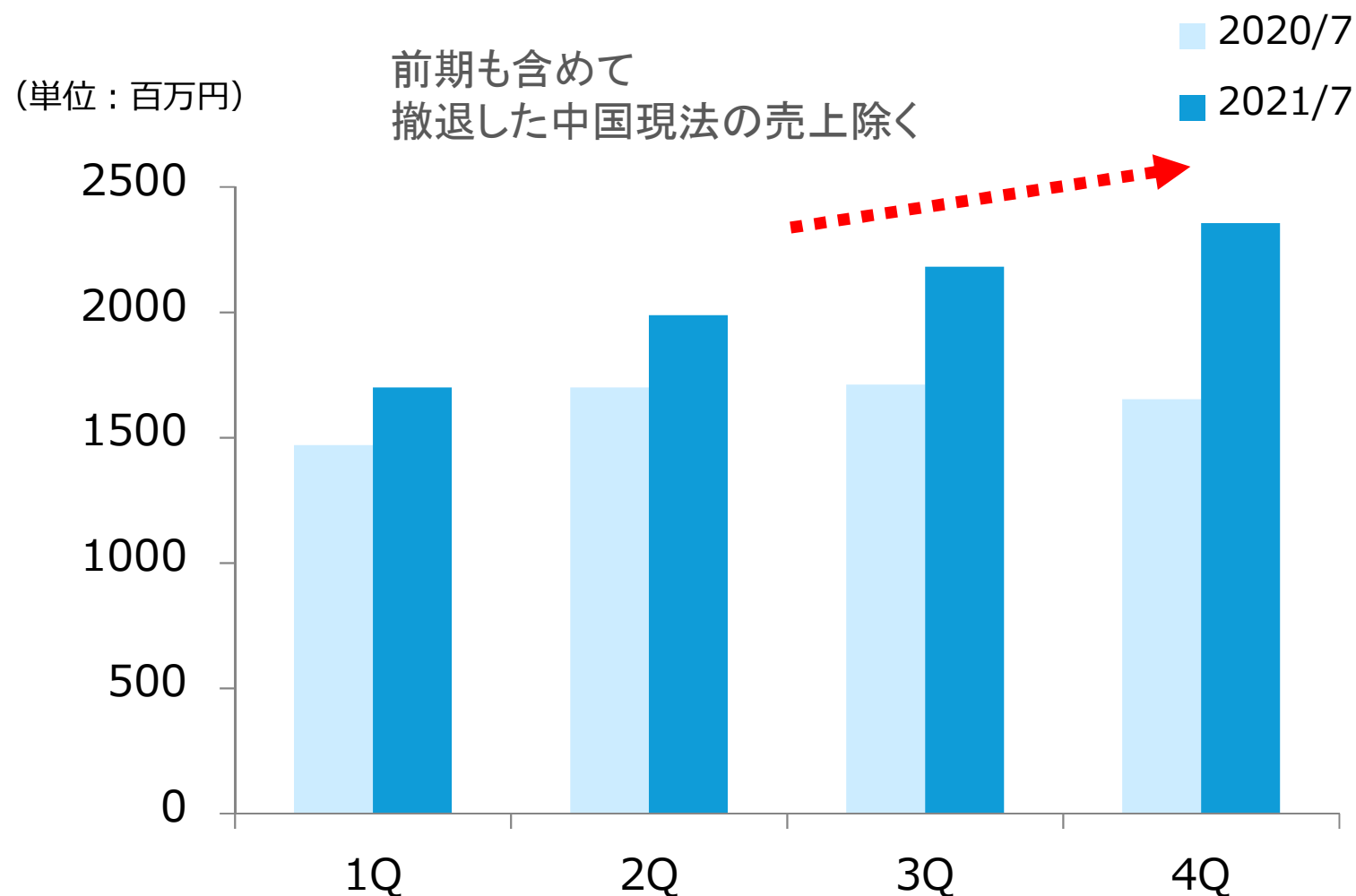
・高付加価値品重視のセールスマックス施策、生産性改善効果により、収益性が改善

当期純利益 966百万円
↑ +463.5%

・特別利益を計上
(中国現法の出資金売却益753百万円)

四半期売上推移（ご参考：国内＋フィリピンのみ）

▶ 好調持続、前年同期を上回る状況に



好調な事業環境が継続

▶ めっき需要は中長期安定成長へ、短期的にも需要は堅調に推移

▶ 短期（2022年7月期）

不確定要因あるも、
コロナ禍の悪影響は少ない見通し

5Gなど電子部品需要増加に伴う
めっき加工需要は底堅く推移へ

- ・ 良好な事業環境が継続する見通し
- ・ 半導体生産停滞リスクがあるも
通信関連を含め需要が堅調
- ・ 今後の需要増を見越して
設備増強等の施策を継続し拡大へ
(今期設備投資計画額：前期比1.5倍)

▶ 中長期（2023年7月期～）

5Gなど電子部品需要増加に伴う
めっき加工需要は底堅く推移へ

- ・ 長期的には、
「社会のデジタル化」の進展で、
電子部品の需要は着実に増加へ。

めっき事業は、着実に成長。

2022年7月期 見通し：増収増益続く

引き続き、通信分野中心に「めっき」需要の拡大続く見込み

▶ 売上高 : 8,380百万円 (+4.1%) (日本+フィリピン)

▶ 営業利益 : 300百万円 (+14.1%)

▶ 当期純利益 : 270百万円 (▲72.1%) * 前期の特別利益解消の為

(単位：百万円)

	2020/7 実績	2021/7 実績	2022/7 予想	増減額	前期比 (%)
売上高	7,947	8,051	8,380	+329	+4.1
営業利益	179	262	300	+38	+14.1
経常利益	86	243	260	+17	+6.6
親会社帰属 当期純利益	171	966	270	△696	△72.1

地域別見通し：国内・海外共に堅調

▶ 国内 設備増強による部品需要の取込、拡大

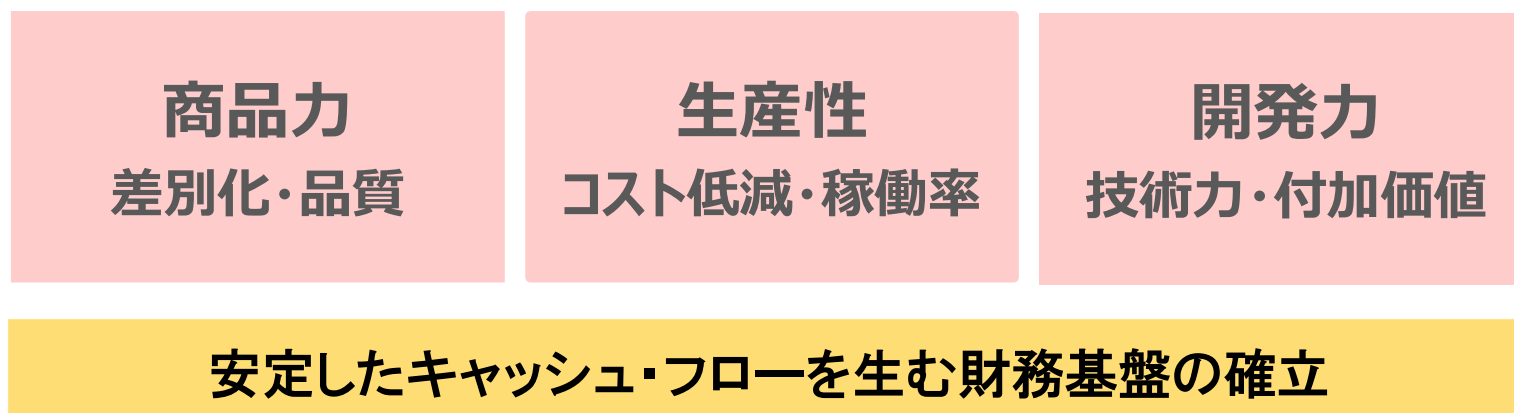
▶ フィリピン 車載需要が堅調に推移

(単位：百万円)

	2021/7 実績		2022/7 計画			
		構成比 (%)		構成比 (%)	増減額	前期比(%)
合計	8,051	100.0	8,380	100.0	329	+4.1
国内	6,284	78.1	6,880	82.1	596	+9.5
フィリピン	1,420	17.6	1,500	17.9	80	+5.6
中国*	345	4.3	* 21/7期は、1Qのみ連結対象。			

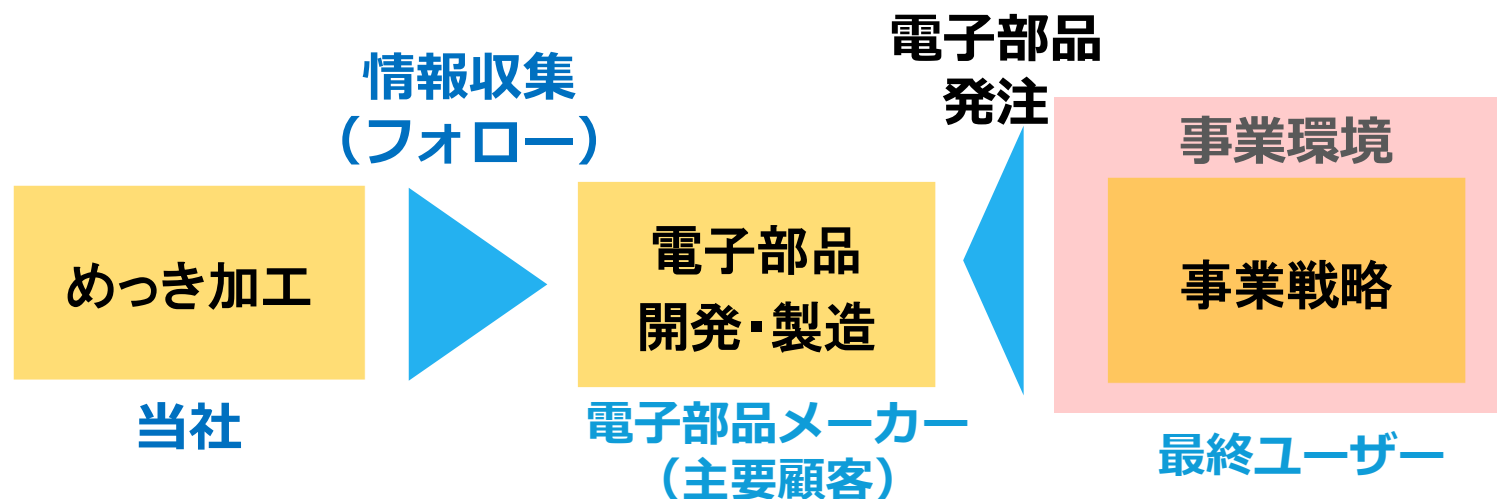
成長戦略：電子部品の市場成長を逃さない

1. 市場の成長を確実に捕捉できる商品力と体制整備



+

2. 市場の最新動向を素早く把握する「情報収集力」の強化



戦略を実現する各施策

▶ 商品力強化

めっきライン新設 による加工体制の強化

- 試作短納期対応
- 少量多品種対応
- 量産超高速化対応



プレス・めっき一貫生産強化

- プレス機増設
- 同一工場でのプレス・めっき一貫生産による受注力強化

▶ コスト対応力強化

＜コスト構造改革 工場統合＞

- 鈴川⇒東北へめっき量産移管
- めっき加工ラインの改造・新設
- 秦野⇒東北へプレス機移設
- めっき加工治具改良、材料使用量の管理強化による材料費低減

▶ 開発力強化

- 研究・開発機能の強化
- 教育強化

東北事業部（工場）の基幹工場化を推進

▶ グループ最大の生産拠点のさらなる充実

東北事業部（工場）の生産能力向上と加工体制強化はさらに推進

鈴川工場（神奈川）から量産加工を
移管し集約、量産設備を増設、改造

めっきライン増設

さらに増設へ



高難易度製品に対応可能な加工
技術、設備対応を随時推進



量産加工を秦野工場（神奈川）
から移管、プレス加工を増強

プレス機増強

さらに増強へ



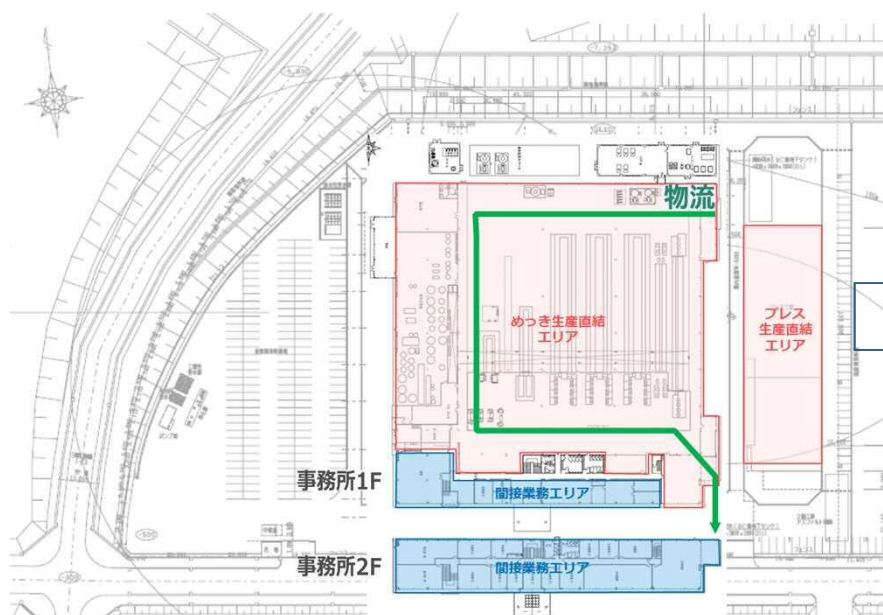
- ①物流のリードタイムを短縮
- ②金型に特化した秦野工場の技術を移管

省人化投資と生産能力増強

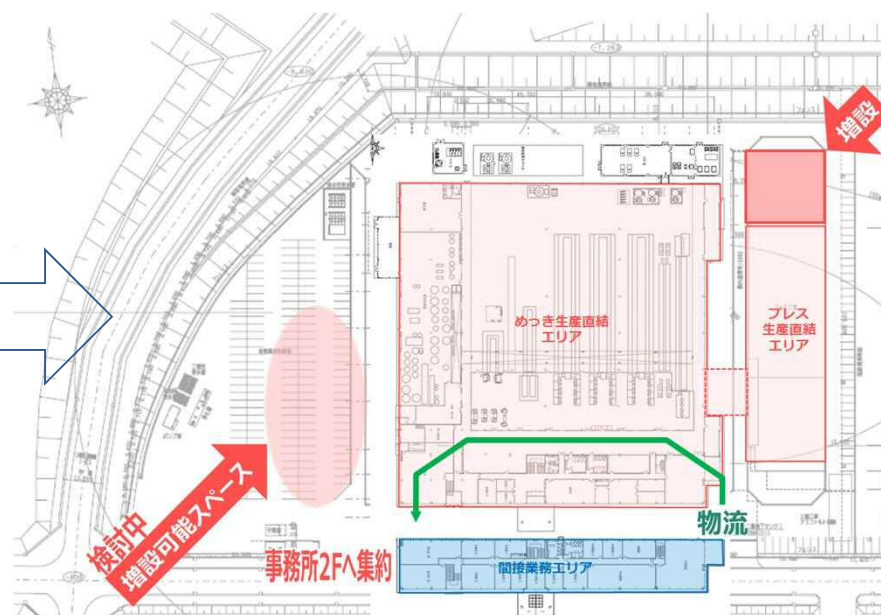
東北事業部（工場）の施設拡充計画

東北事業部（工場）の可能性を最大限に活用

余地の活用 × 設備の拡充 × 物流の効率化



2021年9月 東北事業部



2024年構想 東北事業部

SPMC（フィリピン）コスト構造改革等推進

▶ 2020年10月より取締役を現地社長として派遣し、施策対応力を強化

生産体制、コスト構造の見直しを推進

設備対応、加工体制の見直しを実施

主材料管理、受注品の管理体制を効率化、顧客対応力を強化

コロナショックにより減少した自動車向け需要の回復に対応



研究開発の状況：企業等との共同開発進む

▶ 「水素透過膜」 開発状況

事業化に向け具体的な課題解決の為、共同研究を推進

- ・ 東京工業大学
(科学技術創成研究院 ゼロカーボンエネルギー研究所)
- ・ 産業技術総合研究所
(福島再生可能エネルギー研究所)

新たな技術の確立

比較的安価なバナジウム(V)膜上へ
パラジウム銅(PdCu)合金膜を簡単に
製膜する技術を確立。 (*Int. J. Hydrog.
Energy* 2021;46:32570-6)



**令和3年度福島県再生可能エネルギー事業化実証研究支援事業
に採択（9月）** 高価なパラジウム(Pd)使用量を減少させる技術の開発を
推進。**早期実用化、用途拡大を目指す**

研究開発の状況：企業等との共同開発進む

▶ 引き続き事業化を推進中

「水素透過膜」「銀めっきアクリル粒子」等の新規開発品は、それぞれ企業等と秘密保持契約を締結の上、共同開発による事業化を推進中。

▶ 「水素透過膜」実用化進展

水素のみを通すパラジウム銅(PdCu)合金の特性に着目し、合金めっき法による水素透過膜製造技術を確立。

(Int. J. Hydrog. Energy 2019;44:8290-7, 特許6695929号)

「薄膜化」「大面積化」を進め、
水素利用拡大を目指す企業様向けに提供



資本（配当）政策：今期は+2円増配の年間10円へ

▶ 2021年7月期（予定）： 年間8円（前期比+3円）

▶ 2022年7月期（計画）： 年間10円（同+2円）

増加するめつき需要へ適切に対応：収益性の向上に一定の成果
安定した受注に基づく業績向上トレンドが定着

安定した利益創出にメドが立ち、
将来のキャッシュ・フロー拡大に向け投資強化を最優先しながらも
2021年7月期は株主還元の積極化で年8円に増配（+3円）

2022年7月期（計画）：業績改善傾向続き、
年間10円へ増配（+2円）



決議事項

第1号議案

剰余金処分の件

期末配当に関する事項

剰余金の配当につきましては、
当期の業績並びに今後の事業展開等を勘案し、
以下のとおりといたしたいと存じます。

配当金の種類

金銭

配当資産の割り当てに関する事項及びその総額

当社普通株式1株につき金8円
配当総額36,926,568円

配当金の配当が効力を生じる日

2021年10月28日

第2号議案

取締役（監査等委員である取締役を除く。）6名選任の件

1 こうやま ふみなり
 甲山 文成
 (現任)

2 みうら ひさし
 三浦 尚
 (現任)

3 あらまき たくや
 荒巻 拓也
 (現任)

4 いのうえ てつや
 井上 哲也
 (現任)

5 はまぐち かずお
 浜口 和雄
 (現任)

6 ひぐち まさのぶ
 樋口 雅信
 (新任)

第3号議案

監査等委委員である取締役3名選任の件

- 1 わたなべ かずひさ
 渡邊 和久
 (現任)
- 2 ひ ご はるき
 肥後 治樹
 (現任・社外・独立)
- 3 かみお さとし
 神尾 諭
 (現任・社外・独立)

第4号議案

補欠の監査等委委員である取締役1名選任の件

さとう
佐藤
(現任)

かつひろ
克洋



ご発言・ご質問

お願い

- ご質問のある株主様は挙手いただき、指名されましたら左右いずれかのマイクにお進み頂きご質問下さい。
- ご出席番号票とお名前をお知らせ下さい。
- **新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から
関連質問も含めて
お一人様 1 問までのご質問で
お願い致します。**



議案採決

決議事項 第1号議案

剰余金処分の件

決議事項 第2号議案

取締役（監査等委員である取締役を除く。）6名選任の件

決議事項 第3号議案

監査等委員である取締役3名選任
の件

決議事項 第4号議案

補欠の監査等委員である取締役
1名選任の件

閉 会

第63回 定時株主総会

ありがとうございました。
これからも株式会社山王を引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

貴金属表面処理加工分野の
リーディングカンパニー



市場：東証JASDAQ
証券コード：3441